

## 日本野球の魅力

男なら誰しも一度は野球の選手になりたいと憧れたに違いない。小学校4年のクラス対抗野球大会でレフトを守っていた私は、浅いレフトフライを突っ込んでファインプレーで勝利に導いたことを思い出す。しかし野球の厳しさ難しさを知れば知るほど自身の素質の無さを自覚。あっさり別の道を模索していった我が人生の過去であった。

野球がアメリカから日本に入ってきたのは1871（明治4）年のことだった。以来日本を代表する人気のスポーツへと発展した。少年野球から中学の野球部、そして高等学校の甲子園。大学の神宮球場、社会人野球。更にはプロ野球、WBC（ワールドベースボールクラシック）への最高峰まで道は続いている。それらとは別に草野球としてのスポーツを楽しんでいる人たちの数は計り知れない。

私が初めてプロ野球を観戦したのは1959（昭和34）年の3月の巨人戦。神戸市民球場で行われたが超満員の観客であった。この日の人気のお目当ては高校野球で甲子園を魅了した「王貞治」であった。彼は高校を卒業して巨人軍に入った直後のオープン戦であった。まさに高校生ルーキーのスーパースターであった。この年から通算して868号の不滅のホームラン記録を打ち立てるに至った。その当時は「世界の王」にまでなるとは誰も予想すら出来なかった。

新潟県立鳥屋野公園野球場は2009（平成21）年6月に竣工している。収容人数は3万人（内野席2万人、外野席1万人）。同年7月にオープニングゲームとしてセントラルリーグ公式戦・広島東洋カープ対阪神タイガース2連戦が開催された。新潟県内でのプロ野球公式戦は実に13年ぶりとなった。この素晴らしい近代性を兼ね備えた球場から、第二の「王貞治」が生まれるかも知れない。時代は絶えずヒーローを待ち望んでいる。

撮影 2013年春

